

⑫ 公開特許公報(A) 平1-219483

⑤ Int.Cl.

F 25 D 23/04

識別記号

庁内整理番号

G-7711-3L

⑬ 公開 平成1年(1989)9月1日

審査請求 未請求 請求項の数 1 (全3頁)

⑭ 発明の名称 冷蔵庫

⑮ 特 願 昭63-45259

⑯ 出 願 昭63(1988)2月26日

⑰ 発 明 者 佐々木 雅俊 大阪府東大阪市高井田本通3丁目22番地 松下冷機株式会社内

⑱ 出 願 人 松下冷機株式会社 大阪府東大阪市高井田本通3丁目22番地

⑲ 代 理 人 弁理士 中尾 敏男 外1名

明 細 書

1、発明の名称

冷 藏 庫

2、特許請求の範囲

冷蔵庫前面を開閉する扉と、前記扉裏面のドア内箱とドア内箱に係合して取付けられた貯蔵棚と、前記貯蔵棚へのボトル等の転倒を防止するボトルストップと、前記ボトルストップ両端L字状部に凸状に設けたスライダ一部と、前記貯蔵棚の右壁部及び左壁部に前記ボトルストップのL字状部及び凸状スライダ部を前後に摺動して収納出来る案内レール部と、本案内レール部先端を凹状として前記ボトルストップを回転収納出来る収納部とよりなる冷蔵庫。

3、発明の詳細な説明

産業上の利用分野

本発明は、物品を冷却貯蔵する貯蔵室内に物品を載せる為の棚を設けた冷蔵庫に関するものである。

従来の技術

近年、冷蔵庫の棚は、前壁に係合して貯蔵容器が倒れるのを防止するボトルストップが設けられている。

以下に、従来の冷蔵庫について説明する。

第5図は、貯蔵棚にボトルストップが取り付けられた従来の冷蔵庫の斜視図を、第6図は、同第5図の貯蔵棚の斜視図を示すものである。

第5図において、1は冷蔵庫本体で、2は外箱、3は前記冷蔵庫本体1の内箱、4は冷蔵庫前面を開閉する扉、5は扉4のドア内箱、6はドア内箱5に備え付けられた貯蔵棚、7は貯蔵棚6の前壁、8はボトルストップ、9は前壁7に設けられたボトルストップ8を摺動する為の案内レールである。

第6図において10は貯蔵棚6をドア内箱5に取り付ける為の嵌合部である。

以上のように構成された冷蔵庫について、以下その動作について説明する。

まず、ボトルストップ8は貯蔵棚6の前壁7に設けられた案内レール9に係合され左右に摺動する。この動作により貯蔵棚内に納められた貯蔵容

器が、左右に倒れるのを防止することができる。

発明が解決するための課題

しかしながら上記従来の構成では、ボトルストップバが左右に摺動する為、冷蔵庫の扉を開けた際収納された貯蔵容器が前後にがたつくという使い勝手が悪いものとなっていた。又ボトルストップバを寄せた反対側に空間を形成する欠点を有していた。

本発明は、上記従来の課題を解決するもので、冷蔵庫の扉を前後に開けた際、収納された貯蔵容器が前後にがたつくのを無くし、ボトルストップバを寄せた際の空間を無くす使い勝手の良い冷蔵庫を提供することを目的とする。

課題を解決するための手段

この課題を達成する為、本発明の冷蔵庫は、貯蔵棚側壁に案内レールと、前記案内レールに取り付けるボトルストップバとを備え、前記ボトルストップバを貯蔵棚前壁に形成した収納部に収納する構成としている。

作用

ボトルストップバが側壁に設けられた案内レールを摺動することにより、貯蔵容器の前後のがたつきを防止でき、又、収納部にボトルストップバを手前に回転収納させることによりほとんど無効空間をつくることなく使用することもできる。

以上のように、本実施例によれば、ボトルストップバは側壁に設けられた案内レールに取り付けられている。貯蔵容器前壁にボトルストップバ収納部が設けられている為、貯蔵容器の扉開閉時の前後のがたつきを防止することができ、又、ボトルストップバの収納部がある為、ボトルストップバを寄せた際の空間を無くすことができる。

発明の効果

以上のように本発明は、貯蔵棚左側壁部、右側壁部にボトルストップバを摺動させる案内レールを備え貯蔵棚前壁にボトルストップバを収納する収納部とを備え、ボトルストップバL字状部に凸状のスライダ部を設けることにより、扉を開閉する際貯蔵容器が前後にがたつくことを防止する事がで

この構成によってボトルストップバが前後に摺動する為貯蔵容器が前後にがたつくのを防止し、空間を無くすものである。

実施例

以下本発明の一実施例について、図面を参照しながら説明する。

第1図は本発明の一実施例における貯蔵棚の斜視図を、第2図は同第1図のA-A方向からの断面図を、第3図は同第1図のB-B方向からの断面図を、第4図は貯蔵棚を取り付けた冷蔵庫の斜視図を示すものである。

第1図において、11は貯蔵棚、12は側壁、13は前壁、14は側壁12に設けられた案内レール、15はボトルストップバ、16は前壁13に設けられたボトルストップバ15を収納する収納部、17は貯蔵棚11をドフ内箱5に取り付ける為の嵌合部である。第2図において18はボトルストップバ15両端に設けたスライダ部である。

以上のように構成された冷蔵庫について以下その動作を説明する。

凸状スライダ部を設けることによりボトルストップバがはずれる事を防止できる。又、ボトルストップバの収納部を設けることにより、従来ボトルストップバを寄せたときに生じた空間を無くすことができる。さらに、扉内に充填された断熱材が冷却され、ドフ内箱が収縮した際、ボトルストップバが梁の役割を果たし貯蔵棚のそりを無くすことができ、使い勝手の良い、構造的にも優れた冷蔵庫を実現できるものである。

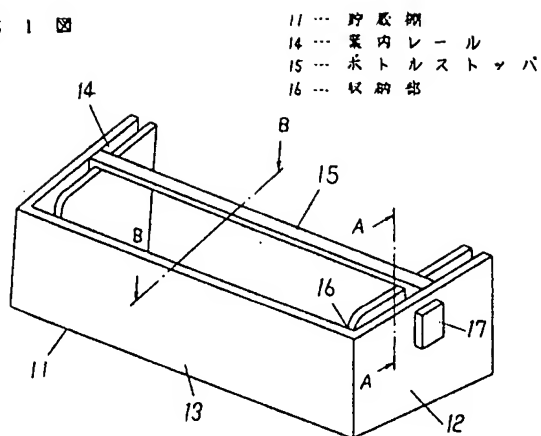
4、図面の簡単な説明

第1図は本発明の一実施例を示す貯蔵棚の斜視図、第2図は同第1図のA-A線の断面図、第3図は同第1図のB-B線の断面図、第4図は本発明の冷蔵庫の斜視図、第5図は従来の冷蔵庫の斜視図、第6図は従来の貯蔵棚の斜視図である。

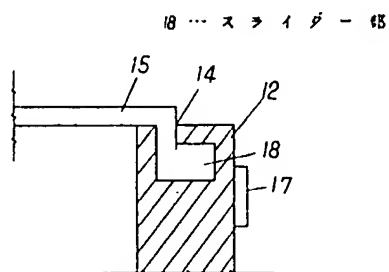
4……扉、5……ドフ内箱、11……貯蔵棚、14……案内レール、15……ボトルストップバ、16……収納部、18……スライダ部。

代理人の氏名 弁理士 中 尾 敏 男 ほか1名

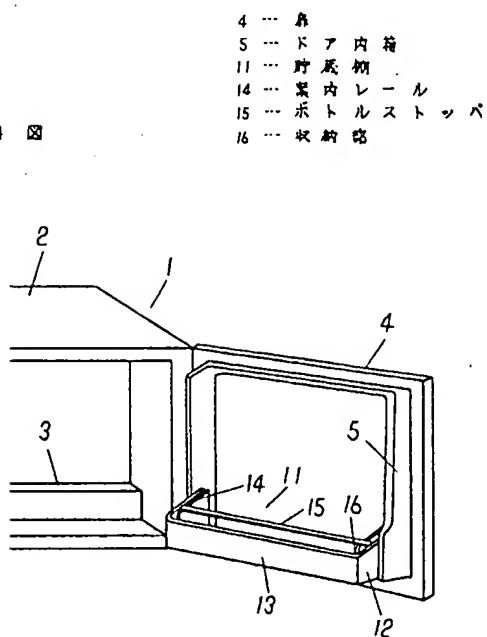
第 1 図



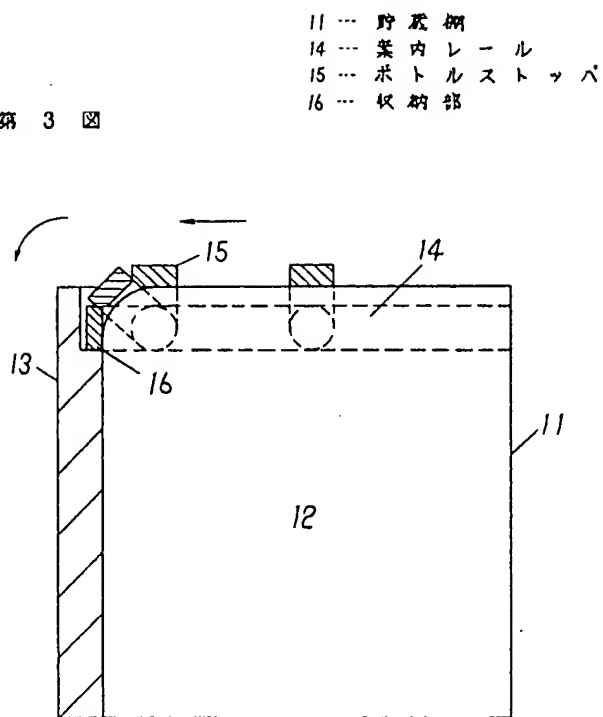
第 2 図



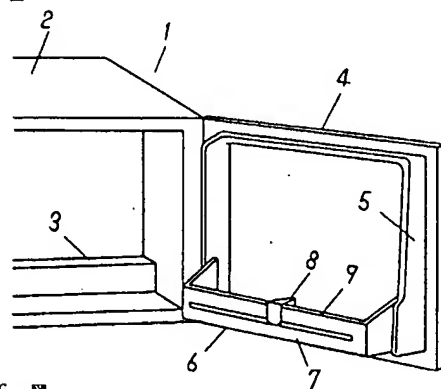
第 4 図



第 3 図



第 5 図



第 6 図

